

「めざすまちの姿」議論シート

中間報告	議論の視点
<p>帯広市は、十勝川水系の豊かな水と日高山脈のふもとに広がる肥沃な大地に生まれ、基幹産業である農業と、産業や生活・文化が深く結びつきながら、都市機能や商業機能などが集積する十勝圏の中核都市として成長してきました。</p> <p>今、私たちを取り巻く社会は、急速な少子・高齢化の進行や経済のグローバル化、交通や情報の広域ネットワーク化などが進んでおり、人々の価値観や私たちの暮らす社会の構造を大きく変えようとしています。更に、地球規模での気候変動や温暖化の進行、大規模な自然災害や凶悪犯罪の発生など、私たちの暮らしを脅かす様々な課題も生じています。</p> <p>こうした社会構造の変化や課題に適切に対応し、活力あるまちを次の世代に引き継いでいくためには、これまで培われてきた歴史や産業、生活・文化などの貴重な財産をもとに、新たな時代の潮流を踏まえ、地域の特性や優位性を十分に活かしたまちづくりをめざす必要があります。</p> <p>そのためには、地域の優位性を活かし、ともに高め合う力強い産業構造を構築するとともに、人々が互いに尊重し支え合いながら安心して快適に暮らし、生き生きと活動し、都市と農村が共生するまちづくりを、市民と行政との協働によりすすめていく必要があります。</p> <p>また、今後も様々な都市機能の充実や広域的な連携を通して、十勝圏の中核都市としての役割を担っていくことが重要です。</p>	<p>全国に先駆けて総合計画を策定しまちづくりをすすめてきた本市には、緑豊かな自然のもとに基幹産業である農業を核として産業・生活・文化が生まれ、快適な都市機能が整備された『田園都市』の理念が一貫して受け継がれている。</p> <p>こうしたまちづくりの理念のもとに、これまで築き上げてきた都市基盤や文化、歴史を継承し、引き続き、計画的なまちづくりをすすめる必要がある。</p> <p>十勝圏における中核都市として、さらに都市機能を高めていくとともに、管内町村との連携を一層図っていく必要がある。</p> <p>道東への玄関口となる本市の地理的優位性を活かし、十勝圏ばかりでなく、東北道における広域的な中核都市としての役割も視野に入れたまちづくりをすすめていく必要がある。</p> <p>社会・経済グローバル化の進展を踏まえ、食料供給や環境問題への取り組みや国際協力・交流など、これまでの取組みを基礎として、国内はもとより世界に貢献でき、帯広・十勝が持つ地域特性を活かしたまちづくりをすすめる必要がある。</p> <p>【これまでの審議会における「めざす姿（都市像）」の考え方に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の考え方を継承しつつ、新しい総合計画において新しいものを生み出していくことが必要。 ・時代が変化しても将来にわたって変わらない本質的なものをしっかりと見据えることが必要。 <p>【参考】</p> <p>これまでの総合計画の都市像の根底にあるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市と農村の共生 ・自然と都市の共生 ・人間尊重 ・風土に根ざした文化 など

「めざすまちの姿(分野)」議論シート

中間報告	議論の視点
<p>(防災機能の強化と保健・福祉の充実)</p> <p>安心・安全に暮らすことができ、健康で自立した社会生活を送ることは、すべての市民の願いです。</p> <p>災害から市民の生命や財産を守るために、災害に強いまちづくりをすすめるとともに、地域住民と行政が互いに連携し協力することによって、地域全体で高齢者や子どもなどの弱者を守る体制づくりをすすめる必要があります。</p> <p>また、誰もが安心して子どもを産み育てることができる環境の整備や、高齢者や障害のある人が、地域の中で、健康で自立した生活を送ることができる環境づくりや制度の充実など、ともに支え合うまちづくりをすすめる必要があります。</p>	<p>【防災・安全分野】</p> <p><u>建物の耐震化の促進</u>など災害に強いまちづくりをすすめるとともに、防災や被害の未然防止に向けた<u>市民意識の形成</u>や、地域住民と行政が互いに連携し、高齢者や子どもなどの弱者を守る地域ぐるみの防災体制の整備などにより、生命や財産などの安全を確保し、市民が安全で安心して日々暮らすことができるまちづくりをすすめる必要がある。</p> <p>【保健・福祉・子育て分野】</p> <p><u>地域や事業主を含めた社会全体による子育て支援の充実</u>などにより、だれもが安心して子どもを産み育てることができるまちづくりをすすめるとともに、高齢者や障害のある人を地域ぐるみで支援する体制の整備や、<u>社会保障制度としての国民健康保険や介護保険の充実</u>などにより、市民一人ひとりが地域社会の中で健康で自立した生活を送ることができるまちづくりをすすめる必要がある。</p>
<p>(地域の特性や優位性を活かした産業の振興)</p> <p>全国的に少子・高齢化が進行し人口減少時代を迎える中で、人々が集い、活力と賑わいのあるまちづくりをすすめるためには、雇用の場の確保など市民生活を支える産業の育成が重要です。</p> <p>農業と製造業や商業との連携など、これまでの地域産業の蓄積を基礎にして、経済のグローバル化や消費者ニーズの多様化などの流れを的確にとらえ、雄大な自然景観や農畜産物、食文化などの地域資源を活かすとともに関連産業との結びつきを一層強め、地域の特性や優位性を活かした産業の振興をすすめる必要があります。</p>	<p>【産業・経済分野】</p> <p>経済のグローバル化や消費者ニーズの多様化などの流れを的確にとらえ、農業や商工業などの関連産業が連携を強め、地域の特性や優位性を活かした産業の育成により、市民生活を支える雇用の場を安定的に確保するとともに、雄大な自然景観や農畜産物、食文化などの地域資源を活かし、<u>中心市街地の活性化や観光振興を通じて</u>、人々が集い、活力と賑わいのあるまちづくりをすすめる必要がある。</p>

(機能的な都市の整備と豊かな自然環境の保全)

都市の活発な活動を促進し、市民が安心して暮らすことができる生活空間を提供するためには、機能的な都市の整備や、自然と調和した、住む人にとってうるおいとやすらぎのある居住環境の創出がますます必要となっています。

これまでに蓄積されてきた都市基盤を有効に活用したコンパクトで持続可能なまちづくりをめざすとともに、市街地や道路交通網の整備、公共交通の充実など、人・物・情報が活発に交流するための都市機能向上の取り組みや、誰もが不自由を感じることなく快適に暮らすことができるまちづくりをすすめる必要があります。

また、豊かな自然環境を次の世代へ継承するため、市民一人ひとりが環境に配慮したライフスタイルを実践するとともに、緑豊かな自然環境の保全や、環境への負荷を低減する資源循環型社会の形成に向けた取り組みをすすめる必要があります。

【都市整備分野】

多様な市民ニーズに応じた、快適で美しい居住環境の形成や、これまで進めてきた都市基盤整備の蓄積を有効に活用し、コンパクトで持続可能なまちづくりをすすめるとともに、道路交通網や空港、情報通信網の整備や公共交通の充実など、人・物・情報が活発に行き交う、効率的で機能的なまちづくりをすすめる必要がある。

【環境・緑化分野】

良質な自然環境を維持し、将来の世代へ引き継いでいくために、温室効果ガスの排出抑制や、ごみの減量・資源化など、身近な取り組みを通して緑豊かな自然環境の保全や、環境への負荷を低減する資源循環型社会の形成をはかるとともに、都市公園の整備などによる緑化活動の推進や上下水道の整備により生活環境の充実を図り、豊かな自然と共生した潤いのあるまちづくりをすすめる必要がある。

(教育環境の充実と文化・スポーツに親しむ環境整備)

活力ある社会を形成するためには、次の世代を担う人材の育成など、人づくりは欠くことのできないものです。

未来を担う子どもたちが個性や能力を伸ばし、豊かな人間性や社会性を身につけ、たくましく健やかに育つためには、学校教育の充実はもとより、学校と家庭や地域社会が一体となって教育に取り組む必要があります。

また、市民が生涯を通じて自分の能力を発揮し、生き生きと心豊かに暮らすため、学習活動や文化芸術・スポーツ活動に親しむことができる環境の整備をすすめる必要があります。

【教育分野】

子どもたちが個性や能力を伸ばし、豊かな人間性や社会性を身につけ、たくましく健やかに育つために、学校教育の充実や家庭・地域との連携促進により、子どもたちが未来への希望にあふれ、将来の夢に向かって意欲的に学ぶまちづくりをすすめる必要がある。

生涯にわたる学習活動や文化・芸術・スポーツ活動などを通じて、市民一人ひとりが自らの才能や能力を高め、互いに交流を深めることによって社会参加を促進し、生きがいを持って充実した毎日を送ることができるまちづくりをすすめる必要がある。

(協働のまちづくりと自主・自立による自治体経営)

社会の変化によって生じた新たな地域課題や市民ニーズの多様化などによって、公共の領域は徐々に拡大してきており、これらに対応するためには市民と行政による協働のまちづくりがますます重要となっています。

町内会など地域コミュニティ組織の活発な活動を通して住民どうしの結びつきを強めるとともに、障害の有無や年齢・性別などにかかわらず、すべての人が能力を発揮できる社会づくりをすすめる必要があります。

また、NPO法人やボランティア組織など多様な活動主体と行政が、市政に関する情報を共有し、役割や責任を分担しながら、質の高い公共サービスを提供するとともに、効率化や広域化をすすめ、地方分権の進展に応じた自主・自立による自治体経営の推進をはかる必要があります。

【地域活動分野】

人々が互いの立場や多様な価値観を認め合い、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、すべての市民が地域社会において、不自由を感じることなく安心して暮らし、能力を発揮することができるとともに、様々な交流を通して住民どうしが結びつきを強め、地域コミュニティの育成を図り、相互の信頼関係に基づく住みよいまちづくりをすすめる必要がある。

【自治体経営分野】

NPO法人やボランティア組織などまちづくりを担う多様な活動主体と、市政に関する情報を共有し、役割や責任を分担しながら、質の高い公共サービスの提供に向けて、市民と行政の協働のまちづくりをすすめるとともに、継続的な行財政改革への取組みや管内自治体との広域的な連携により効果的で効率的な行財政運営に努め、地域の意思と責任に基づく主体的なまちづくりをすすめる必要がある。

これまでの総合計画の都市像

帯広市総合計画 昭和34年度～昭和43年度	第二期帯広市総合計画 昭和46年度～昭和55年度	新帯広市総合計画 昭和54年度～昭和63年度	第四期帯広市総合計画 平成元年度～平成12年度	第五期帯広市総合計画 平成12年度～
<p>(基本的目標)</p> <p>この計画は、帯広・十勝地域の資源を最大化して活用して産業を振興し、経済の規模を拡大発展させ、市民所得水準を向上することによって市民生活の安定と福祉の増進をはかることを主眼としている。こうして明るく豊かな住みよい帯広市 - <u>近代的田園都市</u> - の建設をはかるとともにこれと一体的な関係にある十勝地域ならびに補強的な関係にある道東地域の発展に寄与しようとするのである。</p>	<p>(将来の望ましい都市像)</p> <p>帯広市の都市像は、<u>人間尊重を基調とした「近代的田園都市」</u>とする。</p> <p>雪と寒さを克服し 澄みきった青空 きれいな水 ゆたかな緑</p> <p>機能的な空間のなかで 生活と生産の調和をはかり 市民が連帯感と誇りとをもって 文化的でくらしやすい都市を 北方の風土のうえに創造する。</p>	<p>(帯広の都市像)</p> <p>豊かな自然と 北方の文化に根ざした <u>活力あふれる十勝の中核都市</u> 開拓100年の歴史をふまえ <u>心のふれあいのあるまち</u></p> <p>帯広のまちづくりの歴史は、晩成社の人々の人植にはじまる。彼らは、未開の森林原野を切り拓き、十勝野に一大農業王国を築き上げようと企図した。それは北海道の歴史のなかで、自らの力により大地を拓こうとした特色ある開拓であった。帯広を切り拓いたわれわれの先人には、進取と自立の精神が脈々と流れていた。この精神を受け継ぎ、市民自らが立ち上がり、まちづくりに参加し、理想的なふるさとをつくりあげていかなければならない。</p>	<p>(帯広の都市像)</p> <p><u>緑ひろがる北のフロンティア都市おびひろ</u></p> <p>都市は、誰もが自由で生きがいを持ち、平和で幸せな生活を営む場である。</p> <p>開拓の歴史とフロンティア精神が今なお息づく帯広市は、自然と都市の共生をはかりながら、地域の特性を生かした、たくましい産業と北方の文化を創造し、誰もが健康で安心して暮らせる、人間尊重の精神を基本とした快適な地域社会の実現をめざすものである。</p>	<p>(まちづくりの基本方向(都市像))</p> <p>現代の文明がつくりあげてきた社会は、物質的な豊かさを手にする一方で、地球規模の環境問題や食料問題、教育問題、都市問題など、多くの課題に直面しています。</p> <p>また、我が国においても、少子・高齢化や経済のグローバル化への対応、東京一極集中といった地域間格差など、さまざまな問題を抱えており、これまでの発展を支えてきた社会や経済のしくみを、構造的に改革することが必要になっています。</p> <p>21世紀を歩み出すこの期間は、これまでの文明社会や経済社会のあり方を見直す重要な時期にあり、社会全体にとっても、私たち一人ひとりにとっても、これまでの歴史や現状をしっかりと見つめ直す姿勢が必要になっています。</p>
<p>帯広市新総合計画 昭和38年度～昭和45年度</p>	<p>わが国は、戦後、特にここ数十年の間に、進歩した科学技術にささえられ、飛躍的な経済成長をとげ、国際社会においても着々としてゆるぎない地位を確保している。さらに、1970年代は、情報化社会への展開の時代であるといわれ、全国ネットワークの形成のうえに、いっそうの経済成長が予想されている。</p>	<p>晩成社を主宰した依田勉三翁は、「バッタや冷害は毎年は来ない。もっとも恐いのは人間の精神の荒廃である」と語り、田畑の開墾と同時に、「心畑の開発」による人づくりをもめざしていた。帯広市は明治16年、晩成社の入植以来、昭和57年で2世紀を迎える。この間、先人の英知と努力によって豊かな生活を営めるまでになった。しかし、近年の高度成長経済による物質的な豊かさに比べて、人づくりの面ではどれほどの深まりがみられたであろうか。今こそ、帯広2世紀の礎として市民の自立と連帯を強め、創造性のある人づくりをめざさなければならぬ。</p>	<p>本市は、高い理想を掲げて入植した開拓者たちの、ひたむきな情熱と進取の気風を受け継ぎ、苦難の歴史を乗り越え、日本を代表する農業地帯・十勝の中心都市として発展してきた。</p> <p>本市のまちづくりの基本は、一貫して人間尊重の精神である。市民誰もが住みよく生きがいのある地域社会の創造に向けて、豊かな自然と北方の文化に根ざした活力あふれる十勝の中核都市をめざしてきた。</p>	<p>こうしたことから、これからのまちづくりに向けては、20世紀の経済社会のトレンドではない、新しい視点によるまちづくりが求められてきます。</p> <p>これまで本市は、人間尊重を基本に、都市と農村の調和をはかりながら、活力あるまちづくりをすすめてきました。</p>
<p>(計画の基本的目標)</p> <p>都市づくり、もしくは地域開発計画の目標は、基本的に、市民所得水準、生活文化の向上および福祉の増進をよりよく達成させるところにある。</p> <p>この計画においては、このような目的に接近させるため、</p> <p>第1に、市経済の基調をなす十勝地域経済の高度化、経済規模の飛躍的拡大をはかり、市および市にかかわりあいのある広い経済社会の一体的な発展をうながす拠点都市の基礎を確立し、もって国民経済ならびに道民経済に寄与する。</p> <p>第2に、市民の理想とする近代的な都市生活を享受でき、都市発展に必要な人材の定着しうような、美しく、便利で住みよい都市としての基盤を造成する。</p> <p>以上によって、地域の特色をいかした、緑濃く、活動力のある生産の場であり、安らかな憩いの場であるとともに、より近代的な産業の発達しうる都市 - <u>近代的田園都市</u> - を建設することを目標とする。</p>	<p>しかし、人間生活に物質的なゆたかさをもたらした現代文明は、人間を疎外し、天与の自然を破壊してきた。</p> <p>人々は、舗装された道路を得るために、百年の年輪を刻んだ大木を切り倒し、生活の利便性を追求するあまり、澄みきった青空を失い、おびたしい公害の発生により、生命の安全すらおびやかされるという矛盾、深い病根に悩みきっている。</p> <p>次の社会は、人間尊重の原点にたち、これらの欠陥を克服し、高密度な福祉社会の建設をはからなければならない。</p> <p>まちは、そこで生活する人々が、知恵を寄せ合い、人格と知性を磨きながら、固有の風土に根ざした人情、風俗、伝統を築きあげ、将来に向かって、住みよいゆたかな生活の場としてつくりあげていくものである。</p> <p>本市のまちづくりの基本は、人間尊重の精神を基調とし、ゆたかな人間性と連帯意識により結ばれた市民が、計画的に設定した空間のなかで、生活と生産の調和をはかり、澄みきった青空、きれいな水、ゆたかな緑をまもり、健康で、安全で、明るいまち、学問や芸術を大切に、雪と寒さを克服して、北国にふさわしい生活文化を創造していく、くらしよいまち、さらに北方都市として、国際交流を深め、新しい時代にふさわしい都市の機能を高め、人材と情報を集積し、北海道開発の一翼をになうまちとして築きあげていくことであり、本市将来のもっとも望ましい都市像 - <u>近代的田園都市</u> - とするものである。</p>	<p>人々は、舗装された道路を得るために、百年の年輪を刻んだ大木を切り倒し、生活の利便性を追求するあまり、澄みきった青空を失い、おびたしい公害の発生により、生命の安全すらおびやかされるという矛盾、深い病根に悩みきっている。</p> <p>次は、そこで生活する人々が、知恵を寄せ合い、人格と知性を磨きながら、固有の風土に根ざした人情、風俗、伝統を築きあげ、将来に向かって、住みよいゆたかな生活の場としてつくりあげていくものである。</p> <p>まちは、そこに住む人々の願いの結晶である。平和と自由のもとで、一人ひとりの生命を大切に、豊かな生活を保障することこそ、人間尊重を基調としたまちづくりの基本理念である。次代をになう子どもから郷土を築いてきた老人にいたるまで、すべての市民が生涯にわたり健康で明るく安心して暮らせる福祉を充実することが全市民の望みである。</p> <p>「オベレヘレブ(川の合流する地点)」という先住民の言葉に端を発するように、帯広は人類定住の基本となる川とかかわりの深い理想的な位置にある。その立地条件から本市は、十勝の政治、経済、文化の中心的役割をになってきており、将来とも各町村と有機的な連携をはかりながら、均衡ある発展をめざさなければならない。</p> <p>開拓100年の歴史をふまえ、北国の厳しい自然を生かした、新しい北方文化と快適な生活環境を創造し、産業の振興をばかり、進取の気風に富み、明るく連帯感あふれる市民意識を培い、心ふれあうまちを市民の手でつくり上げていくことが、豊かな自然と北方の文化に根ざした活力あふれる十勝の中核都市を築くことであり、帯広2世紀へ向けて歩むべき基本方向である。</p>	<p>本市は、これまでのまちづくりの理念と情熱を継承し、自立と連携を強め、創造性のあるひとづくりをすすめながら、21世紀にふさわしいまちづくりをすすめていかなければならない。</p> <p>それは、若者が集い、生き生きとして活動することができ、誇りをもって働ける環境がある産業基盤の確立をめざすことである。</p> <p>さらに、豊かな緑に包まれた快適な都市づくりをめざすことであり、人々がもっている自由で豊かな人間性の発揚がはかられる地域社会の実現をめざすことである。</p> <p>十勝の大地から人や文化や産業が育つ。十勝の基幹産業である農業は、生命を育てる産業であり、人々に生命の糧を供給する産業である。そこには、自然と共に生きる生活があり、人をいつくしむ姿勢が根づいている。</p> <p>自然と調和した都市の中で、人々の価値観・人生観にもとづく自由で多様な生活が展開され、活力あるひらかれたまちづくりをめざす帯広市の都市像を、「緑ひろがる北のフロンティア都市おびひろ」とするものである。</p>	<p>こうしたまちづくりの考え方、これからの地域社会を形成するうえで基調となるものであり、新しい時代にも、共通するものです。</p> <p>また、市民の価値観は、精神的なゆとりや豊かさを求める傾向にあり、自由な生活選択や自己実現が求められています。</p> <p>こうした自己実現を求める市民の情熱やエネルギー、知恵と力を生かし、主体的な発想に基づく、十勝・帯広ならではの自主・自律のまちづくりを展開していかなければなりません。</p> <p>都市は、市民が連帯して暮らす場であり、自分たちのまちに誇りがもて、将来に夢と希望のもてる場でなければなりません。</p> <p>帯広市は、21世紀を歩み出すにあたり、これまでのまちづくりの考え方を受け継ぐとともに、時代の潮流などを受け、新時代のさらなる発展を確固としたものにするため、</p> <p>人間尊重を基本に、自然環境を守りながら十勝農業を核とする活力あふれる地域社会、都市と農村が共生するまちづくりをめざします。また、地域社会が一体となりあたたかい人間関係を築きながら、安心して暮らすことができるまち、風土に根ざした個性ある文化が育まれるまちづくりを、市民の参画と協働によりすすめます。</p> <p>こうしたまちづくりの基本方向に基づき、帯広市のめざす都市像を、次のとおりとします。</p> <p><u>人と自然が共生する可能性の大地</u> <u>新世紀を拓く田園都市おびひろ</u> <u>～緑ひろがる北のフロンティア～</u></p>